



## インドは、市場予想を上回る0.5%の利下げを決定

### ポイント1 市場予想を上回る0.5%の利下げを決定

インド準備銀行（中央銀行）は9月29日に金融政策決定会合を開催し、政策金利であるレポレートに0.5%引き下げ、6.75%としました。市場では利下げ自体は予想されていたものの、利下げ幅は大方の予想であった0.25%を上回りました。

利下げ発表後の日本時間15時現在、インドルピーは対米ドルで前日比0.2%、対円で同0.6%のインドルピー安で推移しています。

### ポイント2 世界景気の減速とインフレ鈍化が背景

利下げの背景には、世界的な経済活動の鈍化と、それに伴い、商品価格がしばらく落ち着くとの見通しがあります。景気減速懸念を背景に、政府や産業界が利下げを要請する中、ラジャン総裁は「金融政策は可能な限り緩和的である必要がある」として、国内景気を支える姿勢を示しました。

また、商品価格下落などを背景に8月のインフレ率は3.66%と、2016年1月の目標である6%を大きく下回っています。

利下げ幅を0.5%としたことについては、金融緩和の程度に関する不確実性を排除し、投資をより増加させるため、前倒しで政策決定を行なったと説明しています。

### ポイント3 当面は緩和的な環境が続く見通し

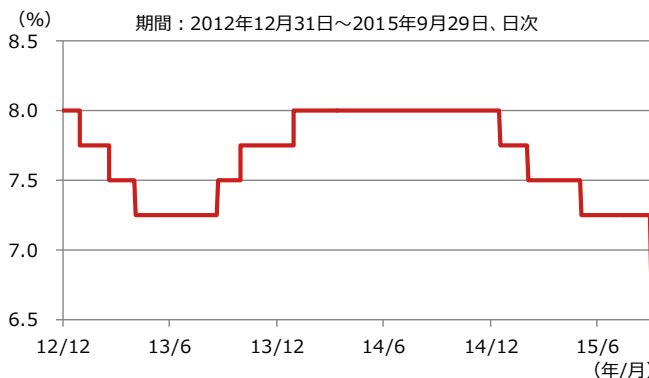
同中銀は、2016年1月のインフレ目標6%は達成される可能性が高いとし、次の焦点は、2017年3月にインフレ率を5%程度に抑えることにシフトしてまいりたいとしています。

同中銀は、当面は緩和的な環境が続けるとともに、短期的には政府と協力して利下げの効果を経済に浸透させることに焦点をシフトするとし、現在の政策金利の水準をしばらく維持することを示唆しました。

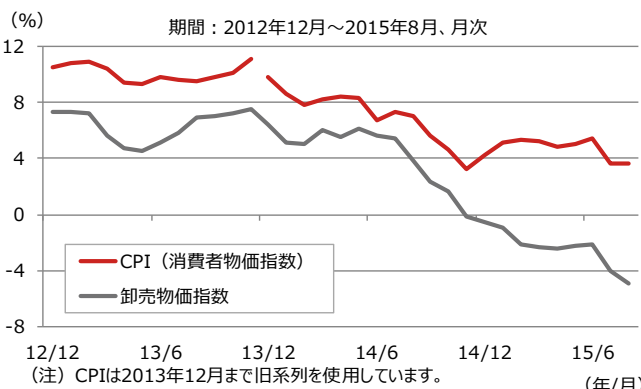
**重要イベント**  
 10月12日 消費者物価指数（9月）  
 12月1日 金融政策決定会合

重要イベントは現地時間で記載しています。

### 【図1】政策金利の推移



### 【図2】物価指数（前年同月比）の推移



### 【図3】インドルピーの推移



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。